

SHARP

シャープ社友会
栃木支部

2002/1

新春号 (第9号)

日光

栃木

発行責任者
浦川正司



写真撮影 只友将弘 氏 (会員番号 2026) 雲巖寺 (参道の橋)

タイトル： 紺碧の空に、燦々と輝く日の光、緑豊かな大地。自然に恵まれた栃木をシンボルします。
と、同時に当地を代表する観光名所“日光”を顕わします。
カラーコンセプト： 日光の赤 (R)、栃木の緑 (G)、バックの青 (B) は、カラーテレビの信号の、
R・G・Bをイメージし、AVシステム事業本部のルーツを象徴します。
同時に、グリーンは社友会のシンボルカラーでもあります。



議 場 風 景



総 会 後 全 員 で

第十三回支部総会は平成十三年五月二十七日大田原市ふれあいの丘「エスポワール」で五十一名の会員と、来賓として会社より山口生産統括と高井総務部長、喜多村副参事。労組より印南執行委員長を迎えそれぞれ会社の近況、労組の近況について挨拶があった。

浦川支部長から日頃の社友会活動についてお礼とともに会員の積極的な行事へ

第十三回支部定期総会



の取組と地域活動への活動も大切との挨拶の後、古市正昭氏を議長に選出ののち議事に入った。

平成十二年度活動・会計・監査報告、平成十三年活動計画案・予算案は議案書通り承認された。四月の本部総会で会則が一部改正されたことに伴い支部での運営細則として、クラブ活動への助成基準を一部変更する事も承認された。

総会終了後別室で懇親会に移り、相互の近況報告、趣味や健康維持の秘訣など、和気あいあいのうちに懇親を深め午後三時前散会した。

(仲谷 記)

熊鷹稲荷神社

例大祭祈願



6月11日(月)社友会代表で拝殿に玉串奉納、激動の難局を無事に乗り切り会社の益々発展と社友会皆様のご多幸をご祈念申し上げます。

(浦川 記)

二〇〇一年シャープ サマーフェスティバル 開催

七月二十八日(土)

シャープサマーフェスティバルに今年も例年通りチャリティーバザー店を出店参画致しました。(今回で七回目)

会員皆さんからの暖かいご提供品も今年最高の二百十点もありました。猛暑の中、夕四時からの開催で短時間の内に完売の大盛況でした。売上金及び愛の募金で得た、金四万円を矢板市福祉協会へ寄付させて頂きました。

ご協力有り難うございました。

(中村 義雄 記)



介護保険制度学習会

八月二十日介護保険制度（昨年4月）の実施にともない、社友会としても該当制度の勉強会を開催。



受講スナップ
（関連記事10ページご覧下さい）

矢板市派遣講師 石田・柳田両氏
（左） （右）

メビウス秋冬商品 説明会の開催

十月十一日、メビウスクラブのパソコン研修の一環として、社友会員のパソコン知識の向上並びにメビウスの販売促進をかねて、浦川支部長が主催者となり、秋冬商品説明会を開催した。講師には首都圏統轄本部宇都宮支店第一営業の上池係長をお招きし、新製品の特徴説明、最近話題のブロードバンドなどに就いて、資料を配布の上、懇切丁寧に説明頂いた。二〇名の参加者からは、質疑応答、製品への提案、各種意見交換等二時間を超える熱気あふれる会合となり、大変有意義な商品説明会になりました。（三友 記）



メビウス商品説明会会場風景
（関連記事17ページご覧下さい）

支部懇親旅行

秋の奥入瀬と十和田湖の旅を十月十五日〜十六日に一泊二日の青森・秋田方面の旅に出掛けた。天気と真つ盛りの紅葉に恵まれ、十和田湖・奥入瀬・田沢湖等の景色を満喫出来た。

（田中 勇 記）



津軽の南田温泉 ホテルアップルランドにて
（関連記事11ページご覧下さい）



自他乗寄
利過候に
皆様の新年を祈念申し上げます

元旦

栃木支部長

浦川 正司

新年を迎えご挨拶申し上げます。

昨年を振り返り見ますと、諸種の問題が次々に発生し同時テロ問題等、過去の社会に無い難航の時代へと変化の激しい年でしたが、暮れには日本国民が待ちにまつた新宮様（敬宮愛子）ご誕生の明るいニュースが流れこそってお祝いお喜び申し上げました。夫れ夫れの出来事は私には評論出来ませんが、各位のご賢識で判断願うことと致します。

当支部も発足後十四年を経過し節目の十五年を目前にして居ます。過去の経緯を反省し今後に対応致したく思考致しております。会員数は設立当時五十名強より、現在は百六十名強と増加して居ますが、活動内容は特筆すべき事項も会員増加率、積年に比べて今一步の感を心苦しくペンを走らせて居ます。

長年の夢でありました会報、第九号の発刊が編集委員の努力で出来上がり会員各位の懸け橋の一端となり、今後更に内容の充実を図り新聞形式を含めて年四回程度の発刊も検討中です。

老人介護保険制度の勉強会も実施して参りましたが、老化防止と時流に残され無いよう、昨年後半より会社のご配慮を戴きパソコン機器を設置戴き、支部としても同機器を購入、更に古山氏よ

り機器のご寄贈もあり杜友会室に三台のパソコン機器を設置しメビウス・クラブも発足、当「日光」もメビウス・クラブ会員の手作りで発刊致しました。毎月四回程度の講習会を実施し、楽しく勉強会をして居ます。初めての方もすぐにマスター出来て情報収集が出来ます。皆さんのご参加をお待ちして居ます。その他は例年の継続で変化はありません。

現在は改革の時代であり、新入会員も多数入会されており前記申し上げましたように、活動内容に刺激的変化なく各行事の参加比率も低調でありさらなる発展進歩を図るには、活動指標に多数のご要望ご意見をば提示願ひ、一歩一歩と前進し会員相互の親睦を深め老後を明るく楽しく送りたいと思致しております。その為には若い英知と実行力に溢れた人材で再改革された組織作りが必要と願望致します。

続いてこそ道

つづけること程人間を本物にするものは無い。

何をしているかでない何をつづけるかである。

疲れた足は歩きながら治す。

成功するとは成功するまで続けることである。

この様に書かれた文章を熟読しました。当支部も先輩より引き継いだ道を新しい力で節目を飾るべく、各位のご協力を年頭に当たり願望し、栃木支部の発展をご祈念申し上げ新春のご挨拶と致します。

新世紀二度目の 新年を迎えて

常務取締役
A V システム事業本部長

濱野 稔重

新年明けましておめでとうございます。
社友会栃木支部の皆様方には、希望に満ち溢れた新しい年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

日頃は、シャープ製品のご愛用や当社社員に対するご指導・ご鞭撻等、大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

さて、二十一世紀最初の年でもありました。昨年は、国内にあつては長引く景気の低迷や政情不安から年初より株価は大きく下落し、一層不況感が強まる中で後を絶たない企業倒産や雇用状況の悪化が連日報道される等、経営環境としては月を追う毎に厳しさを増す状況が続きました。又、世界的にも米国IT産業の鈍化から低成長が見込まれる中、九月の米国同時多発テロ事件の発生は、世界経済の急激な冷え込みを招くには十分すぎる出来事だったと言えます。



常務取締役
濱野 稔重

このように振り返って見ますと、二十一世紀最初の年はあまり良い年ではなかったという印象がありますが、反面、日本の経済や産業の将来展望に眼を向けますと、ITの本格的普及やA V・通信分野のデジタル化とブロードバンド化の進展等、新たな産業構造への再編に向けた潮流を感じさせる新世紀に相応しい年であつたような気も致します。

シャープは昨年、世界最強デバイスの液晶をはじめとするオンリーワン・システムデバイスを核に、独自特長商品を創出し二〇〇一年を商品の年とすることを基本に取り組みしましたが、経営環境の急激な悪化から中間期連結業績としては、売上高は前年同期比八・五%減の九、〇二億円、営業利益は前年同期比一四・二%減の四四六億円、中間純利益は一六二億円と残念ながら前年中間期実績を下回る結果となりました。又、A Vシステム事業本部は、社会的に拡充の進むネットワークインフラを通じてデジタルが求める新しい価値に應える、デジタルニュー・ライフ・二一構想の戦略商品である「アクオス」を中心に、グローバルで液晶関連事業のナンバーワンを勝ち取ることで、世界規模のシェア拡大と海外事業の革新を

図ること、商品の年に相応しい重点新製品の市場投入を計画通り実行することを基本に取り組み、中間期連結売上は前年同期比一一〇・二%と前年中間実績を上回る事ができました。

本年についても予想を超えた経営環境の悪化から引き続き大変厳しい状況が予測されますが、液晶テレビ「アクオス」、一ビットオーディオ「アウビィ」、そしてアクオスと一ビットを融合した「アクオスシアター」を中心とする二十一世紀商品事業の更なる拡充と、二十世紀商品事業の競争力強化を基本として、グローバル競争に打ち勝つための矢板工場のマザー工場化を柱とする製造業を極める事業構造革新、そしてブランドイメージの刷新に、全従業員が一丸となつて取り組み、先輩諸兄の築き育ててこられたA Vシステム事業本部を、新世紀に相応しい事業体に革新して参る所存でございます。

社友会の皆様方におかれましては、従前にも増して暖かいご支援ご指導をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。最後にになりましたがシャープ社友会の今後益々のご発展と、会員皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

正 反 合 社友会会長 幸 實



社友会会長
幸 實

社友会の会長を仰せつかつて一年が過ぎました。私の本性は、もともと文章が下手糞の上、口の悪いへそ曲がり技術者であり、社友会会長職はもとより、品位ある社友会紙に会長として投稿するなどはもつての外と知らぬ顔の半兵衛を決め込んでおりましたが、東京支部より何か寄稿せよとのご指示があり、さてどうすべきかと一瞬迷いました。しかし、総理大臣ですら自ら「私は変人」と言ってはばからない世の中に、年を経てますます上達しつつあるへらず愚痴を叩く老人の繰言集でも投稿するかと思ひ直してみました。その代わり、私のエネルギー削減のために原稿文は、大阪本部、東京支部、栃木支部、広島支部（ご希望あれば九州分会）にお送り致しますので、各支部毎への投稿はご勘弁を願います。「採用、不採用」はそれぞれでお願いします。間違っても「会長のご挨拶」など改まったトップページ記事にはしないで下さい。

拙訳

色は匂えど 散りぬるを
我が世 誰ぞ常ならむ
有為の奥山 今日越えて
浅き夢みし 酔ひもせず

（色香を誇っている人も やがて散ってしまふもの 今の状態がいつまでも続く人などいない 悩み多いこの世の考え方を越えて 浅はかな夢を見たり 栄耀栄華に酔ったり しない境地にゆこう）

これは、銭湯の下足順の番号にも使われる「イロハ」ですが、何とも言い難い深い真理が隠されていて「日本語の奥深さ」を感じますね。初めてお知りになられた方は、どうでも一度必ず復読してみてください。

「悩みのない世界」について社友会の皆様はどうお感じになるでしょうか。ある人は、「あの世のこと」と思い、ある人は「くよくよしない世」と思い又ある人は「仙人のような生活」等々各人各様のお考えがあると思います。私が先に述べた「へそ曲がり技術」をもつてすると、「又もや正反合が出てきたな」となります。例えば、この場合の「正」は「この世」で「反」

は「あの世」で「合」は「この世対あの世」があるかどうかということになります。別の判り易い例を上げますと「正」が「男」で「反」が「女」とすると「合」は「赤ん坊」です。もし「男対女」を認めない人がいたとすると「赤ん坊」の存在は何か論理説明がつかないことになります。「男女」の他に、自然界では「昼と夜」「夏と冬」「晴天と雨」「生と死」「この世とあの世」等々、物理界では「作用と反作用」「電気のプラスマイナス」「粒子と波」「数学の実数と虚数」「その他多くの自然現象」等々です。「正」に対して真正面から立ち向かう技術者にとつてこの現象の理解が重要で「本当か嘘か」の境目での興味のある話が多いのです。

前置きが長くなりました。第一回目は、「占い」でゆきましょう。昭和五十五年、私が部品事業部長の時、川口部長（その後取締役を経て現社友会員）がMZ-80というパソコンを開発し、当時大いに売りまくったものです。私は事業部内に「すべての職場でパソコンを使いこなせ！」と大号令を發しました。昭和五十六年の正月休みにも「休み中に職場合理化用パソコンソフトを考えて来よう」指示しました。余り強く言ったせいか「事業部長自身はどんなソフトを考えるのか」という私にとっては嫌味のある噂を耳にしました。「職場合理化用ソフト」



を作ったのでは、かなわないと思い、当時興味を持って読んでいた「算命学」という占いの本の内容をパソコンソフト化し生年月日を入れるだけで「運勢を占う」ソフトを作りました。

年末正月を家でパソコンに向かい合い腰痛になる程頑張つてようやく出来上がりました。社員の皆様には大好評を得ましたし、ソフトとは如何なるものかも少しは判りました。このソフトはその後も改良を重ね今は「ウインドウズ」上で動くようになっています。

私達は誰も知らない、あの世「反」から生を受け、今この世「正」に存在し、やがて旧に戻る死「合」を迎えます。この循環「生から死に至る間の自分の運命」に何か「自然の法則、ルール」つまり「合」があり、それを解き明かしたいと古代の人が考えたのは至極当然でしょう。それが占いだと思うのです。占いはやはり科学の中に入れても良い「正反合」の一つだと

思っています。

「大自然」は、例えば、食物の連鎖によって強い生物が弱い生物を食して生きていく世界であります。強い、弱いは大自然が決めた法則、ルール（エネルギーの循環）に従って決まっています。また、水があり、風があると「波」を生じます。「波」は水でもなく風でもありませんが水と風によって作られたエネルギーであります。自然界で規則正しいルールや法則の世界は、太陽や星の「天体」の動き、夏や冬の「季節」の動きそれに「木火土金水」という当時の中国流万物の「元素」を加えて「人の生年月日時間」が「その人のエネルギーのスタート（運勢）である」として使われていたと思います。

そのルールを発見作成した古代人は、多分に霊感的な部分があつて説明の付かない部分もありますが、ゲーム感覚として、面白いと思っています。

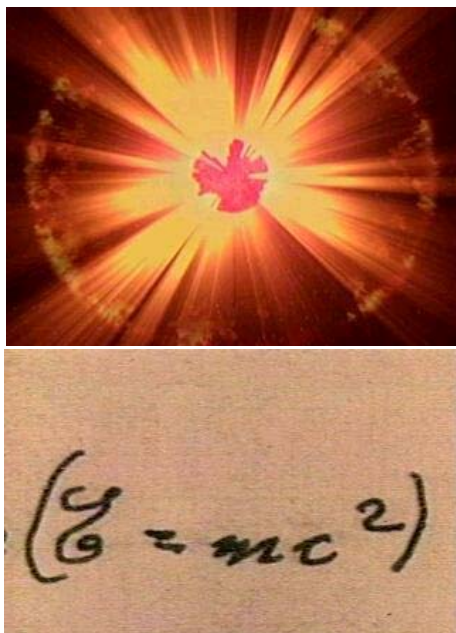
ます。「占星術」は、生年月日時間を基として、数多くの組み合わせ（連立方程式）を作り、さらに 組み合わせに解釈の強弱を付けて最終判断を下す「鑑定人の鑑定能力を問われる」複雑な手法であることを付け加えておきます。しかし残念ながら占いは「死後の世界」についてどうなるかまでの予測はなく、それはもっぱら宗教家の「地獄極楽閻魔説」が流布されていたようです。

さて、次は「あの世」についてももう少し「現代科学」と「正反合」を駆使して分析してみたいと思っております。

「私はどこから来たの?」「それはね、お母



さんのお腹から生まれてきたのよ」よく見られる子供の質問に返事をするお母さんの姿ですね。子供ですから大抵はここで、お母さんと自分との深い繋がりに満足して納得するのですが、もし、更に「その前は何処にいたの」と言われた時には、お母さんは返事に窮してお父さんの援軍を期待しますが、お父さんも、お母さんとの仲むつまじかった結果こうなった事は思



拙訳

色不異空 空不異色 色即是空 空即是色

色は空と異なるものではなく、
空は色と異なるものでもない
(言い換えれば)
色は空であり、空も又色である

い出しても適切な説明が出来ず「聞こえません」と逃げの一手でしょうね。「現在、自分が存在している(正)」を認めるならば、「その前はどうかあったか(反)」を知りたいと思うのは当然でしょうが、手紙もEメールも証明書も来ない(反)の世界の事なので、誰もが返事に困ってしまうわけです。

この辺りの状況を説いた「仏教」では「現世(正)」と「来世(反)」という世界を「彼岸(合)」で橋渡しをして説教をしております。

これは、般若心経の最も中心をなす有名な一節で、宗教家の描く境地です。般若心経は、仏教全ての宗派を包含する経典とされ、この経を唱えることで神社仏閣宗派に関係なく祈禱が叶うとされている重宝な有難いお経であり、写経をされた経験をお持ちの方も多いのではないかと思います。

般若心経は、前回の「色は匂えど」と同じ境地を説いておりますが、少し判りづらいことです。へそ曲がり技術屋の私には、「宗教家」が信者に「威厳を付けてお説教をして有難く何回も奉加料を戴く手法」にしているのではないかと勘づてみたくなります。

余談になりますが、最近の宗教界は、国宝のお墨付きをもらって観光地化し大勢の団体参拝客を集め、本来の宗教である「神聖な祈りの場所」という意義を失った所もあるように思えます。参拝客も一応は手を合わせ現世のご利益を祈念致しますが、観光、物見遊山気分ですし、お坊さんの方もそれなりのビジネス業として収入増加のためと割り切っておられるのではと思はせる光景も見られますね。

般若心経の「色」というのは「色香」「色彩」に溢れたこの世「味覚、触覚、等のすべての感覚」を表しており、これらは全て「空」「空虚」「無」であると説かれています。「空」「空虚」「無」というと「ゼロ」「何もない」と考えたら判らなくなります。そうでなく「プラスとマイナスがあって合すると「ゼロ」になる、つまり「正、反、合」と考えるようにすれば理解ができます。科学でもこのような考え方が大事



なのです。

宗教界でも「あの世」については多くの説があつて理解しづらいのですが、正、反、合に係る説として仏教界では良く輪廻(りんね)といつて、死ぬとこの世からあの世に行き、再度(人間とは限らないのですが)生まれ変わってこの世に来るといふ説があります。廻るといふ考え方は「東を向いている人の一番遠い距離にあるものは何?」という問題に対して「それはその人の背中」が答えになることは良く知られています。輪廻は無限に続くことを可能にする発想です。

私にとつては、キリスト教は更に無学ですが、聖書ではこの世の始まりは「始めに光ありき」と記述されているそうです。「宇宙の始まりは約一〇〇億年前にビッグバンという大爆発で出来た」という現代技術論と一致します。先ほどの子供のように「ビッグバンの大爆発の前はどうだったの?」ときいてみますと、科学者は



「無」であったと答えます。般若心経の「無」という世界と同じで「無」の世界は次第に「ゆらぎ」を生じて(正と反)遂にビッグバンに到るというのが定説です。現在我々の住む宇宙は、その一方の世界(正)であり反対の性質を持つ「反世界」(反)があると「量子力学」は教えています。この世の物質をどんな細かく割ってゆきますと、湯川博士の素粒子という所に達します。これが最終の姿かと思いきや、更に大きな力(エネルギー)をかけると粒子と反粒子とに分裂します。しかし瞬時にして、粒子と反粒子は再結合して元に戻ってしまうことが確認されています。この反粒子は、あの世を支配し充滿している粒子であるかどうかは判りませんが全く逆の性質を持つことが判っています。

さて、「大自然の法則」の方に移りましょう。万物を支配し進行させている宇宙の根源は何か、へそ曲がり技術者の私は、「時間と空間と

重力」ではないかという結論に達しています。(これは難しいと言わずに読み進んでね。)

まず「時間」。これがこの世では休みなく前に進むので「色は匂えど散りぬるを」となってしまうのです。時計の針を逆に戻して若返りたいたと誰でも考える欲望ですが、この世では理論的には光の速さ、一秒間に三〇万キロメートル以上(一秒間に地球を七・五回以上廻る速さ)の乗り物に乗れば若返ることが出来ます。しかし現実にはその乗り物を作るのは無理でしょう。太陽と地球の距離は約一億五千万キロメートルですから太陽の光が地球に届くのに約八分かかります。従って地球上で見る太陽は八分間だけ前の若い姿の太陽です。今地球に届くのに五〇年かかる(宇宙規模では非常に近い)星から望遠鏡で地球を見ると五〇年前の貴方の姿が地球上に見えます。でも、貴方は一瞬の時間でその星に行かねばなりません。

余談ですが、原子力発電機のパイプに亀裂が入って冷却水が漏れるという幼稚な事故が何回も起こっています。パイプを丈夫にすれば良いというすぐく簡単なことが、原子力機器の技術者の英知を集めても出来ず繰り返されるのは、原子の世界では「時間が早く進む」ので、パイプが早く疲労するのではないかと考えています。つまりこの世の一〇〇年は原子世界の一〇〇年だと。(本当ですかね?)日本の童話に出てくる浦島太郎の物語は「亀に乗って竜宮城に行き三日間を乙姫様と過ごして戻ったら、三〇〇年が過ぎていて、もと居た家も村もなくなり、玉手箱を開けた途端に時間が急に進んでお爺さ



んになった」という誠にすばらしいタイムトンネルの発想の話があるではありませんか。亀という時間をコントロールできる乗り物に乗ったからですね。

さて、今回は話しが途中になりましたが、次回も引き続き「あの世」の探索の旅に出かけたいと思います。

(次号に続く)

介護保険制度学習会を開催！

岩村 博

介護保険制度が2000年4月に導入され「要介護認定」が10月から実施されました。現実に介護・介助を必要としているご家族をお持ちの会員、そして会員自身もその年齢に達してきております。会員皆さんの不安や課題に対応するため「介護保険制度と導入後の課題について」と題し、学習会を開催致しました。

浦川支部長の挨拶で始まり矢板市高齢対策室から課長補佐 石田氏・主査 柳田氏を講師にお迎えして、介護保険制度や保険料の仕組み、実際に利用する際の手続き方法など介護保険の概要について説明して頂き、説明を頂いた後、会員自身65歳を迎え第1号被保険者となる時の保険料と手続き方法利用できるサービスと利用料の内容、各地域の介護施設状況等々意見交換・会員間で情報交換を行いました。

○ 実施 日時 8月20日(月曜日)

○ 午後1時30分から約1時間30分

○ 実施場所 シャープ内
「コミュニティーホール」にて

○ 実施内容 介護保険制度と
導入後の課題について

○ 出席者数 会員26名



説明会会場スナップ

介護保険のあらまし

〔第1号被保険者〕

☆加入する方 65歳以上の方です

☆ サービスが利用できる方 ①寝たきりや痴呆などで常に介護を必要とする状態(要介護状態)の方

②常時の介護までは必要ないが、家事や身じたく等、日常生活に支援が必要な状態(要支援状態)の方

☆ 保険料のお支払い 原則として老齢・退職年金からの天引きです。

〔第2号被保険者〕

40歳から64歳までの医療保険に加入している方です。

①初老期痴呆、脳血管疾患など老化が原因とされる15種類の病気により要介護状態や要支援状態となった方

加入している医療保険の保険料に上乗せして一括納めます。

秋の奥入瀬と十和田湖の旅

田中 勇

十月十五日、十六日 一泊二日の青森、秋田方面の紅葉の旅に出掛けた。

早朝五時三十分シャープ体育館を出発東北自動車道を北へ走る。稲刈り取りが終わった直後の田畑と小高い山、林が延々と高速道路沿の景色が続く。飲み物、つまみが入り賑やかで快調にバスが走る。日光・那須高原は紅葉が始まったと伝えられるが緑の草木が車窓から展開されており旅先の紅葉が早いかな？



十和田 奥入瀬溪谷銚子大滝にて

小坂ICから国道に出て三十km程で十和田湖畔(秋田県)に到着。「休屋」で昼食、十和田湖観光船に乗船、一時間の遊覧。快晴の天候に恵まれ紅葉の真つ盛りで美しい。絶好のタイミングに当たり満喫して下船奥入瀬の散策に入る。

十和田湖の水が流れ出て、自然林の中を緩やかに流れ下る、自然林が岩石にしがみつくように林が形成されており栃木の森より明るい。北国の紅葉は黄色紅色等七変化で文字通りの色彩である。どの場所でもカメラのシャッターを押しても、はがきの写真になる風景が展開する。

津軽の南田温泉 ホテルアップルランドに午後五時に到着、今日のバスの走行距離は七百十kmで、矢板から大阪と同一距離だが皆んな元気。

ホテルの周辺は、一面のリンゴ園に包まれており温泉に浸かる。

秋の夜長を友と歓談戴き、元気で年を重ねて行きましよう、と浦川支部長より挨拶。新入会員の鈴木さんの音頭で乾杯、久し振りに合った友々と近況等歓談、カラオケ余興等交えなが懇親を深めた。

リンゴ園の香りを枕に眠りに入った。朝八時にホテルを出発、八幡平を通り玉川温泉に到着、湯煙が岩場のあちこちから吹き出し、ブクブクと九十八度の温泉が噴きあがっている。

程なく城ヶ倉大橋で停車、ここからの眺めは深い谷底のせせらぎから山頂迄、日光の当たりもピツタリで紅葉は絶品。八幡平を経て田沢湖に到着。



田沢湖 たつこ姫像前にて

那須野ヶ原開拓の歴史

(前号より)

山路 規生

明治新政府が、殖産興業の為六年に設置した内務省が中心となり、製糸・紡績等の軽工業の促進を図る一方、青森以南の原野に着目し牧羊場を計画し、九年に内務卿大久保利通が旧士族授産の為、部下二名に東北地方、栃木の原野調査を命じた。

この調査結果は、勸農局長の松方正義に報告された。これに誘発され、松方の勧めもあつて政府高官や旧藩士・地元有力者による大農場開設の機運が高まつた。

明治九年十月二十九日初代県令鍋島幹が、公用で大田原を訪問の際、印南・矢板の両名は「水」の重要性を強調した。県令は、良く理解すると共に、那珂川から鬼怒川に至る運河構想を披露。両名は、この壮大な構想に驚くと同時に、実現に挺身することを約束した。



トンネルから出た那須疎水

早速、翌十年一月五日、九日にかけて、那須郡・塩谷郡の勸業附属六名が、三十三センチの雪の中を板室から氏家まで実地調査を行った。この結果を計画書にまとめ、県令を通じて、内務卿伊藤博文に提出した。しかし、今更運河でもないと言うことか、政府の動きがない。

先に着工した日本三大疎水の一つ安積疎水(福島県)の起工式に、伊藤博文と松方正義が出席する新聞報道で、現地で面会をし、帰途那須野ヶ原に立ち寄る旨の約束を取り付けた。そして、十一月十三日訪問の報を受け、県令以下関係者が白河に出迎え、この日は那須温泉に一泊。翌十四日烏ヶ森丘上で運河計画を説明した。

何分巨額の費用が伴うため、政府はやはり動き出さなかった。そこで以前、松方より助言のあつた「先に開拓を始めるように」に従い、那須開墾社を創設したのである。

分かつていて開始したもの、飲用水の確保に難渋した。そこで肇耕社と那須開墾社が協同して飲用水路の開削を願ひ入れこれが認められ、明治十四年九月二十三日着工した。途中工事の中断があつたが、翌十五年十一月十三日那珂川上流の細竹地区から千本松まで十五・二kmの本幹用水路が完成した。十四日、栃木県令藤川為親以下関係者が見守る中、通水

を行い小船に乗って下り一泊、十五日には那須開墾社庭で通水式を行った。更に、三本の分水路の開削を行い十六年十月頃完成した。

この分水路は、かなり那須疎水に利用されたが、本幹水路は全く利用されず山林に埋もれてしまった。

これによって、当時操業していた青木開墾那須開墾社・肇耕社・加治屋開墾場その他の移住人や牛馬の飲用水が確保できた。

その一方では、本幹水路がまだ完成していない十月頃、やはり本格疎水が必要であるとして、以前の運河計画を再度政府にしている。

明治十七年になり、いよいよ那須疎水の実現に向けて行動を開始したが、政府の許可が降りるまで、一年半の間に六度に亙り東京に出向き、政府要人に懇願した。その主な要人は、伊藤博文・松方正義・西郷従道・大山巖・山県有朋である。許可が出る迄の間に、那珂川の取水口付近はトンネルとなるので、岩質調査の名目で私費による試験掘りを申し入れ許可された。これは本工事の遅れ防止の意味もあつた様である。この工事費用として五〇〇〇円の借入れを申し入れたところ、農務商大輔品川弥二郎の斡旋で、七月六日第六十国立銀行から貸し付けが許可された。

こうしてトンネル工事は、明治十八年四月十五日頃迄に完成した。

本工事許可取得の為、書類を携え明治十七年一月十七日から六度目の上京をし政府に願ひ入れた結果、農商務卿 松方正義内務卿 山県有朋の連名で、太政大臣 三条実美に十八年中に十万円を支出して欲しい旨上申し、四月一日認められた。

この時は、四月十三日迄精力的に奔走し、有力者や政府要人の賛意を取り付けている。ようやく長年の願ひが叶ったのである。

そして、明治十八年四月十五日烏ヶ森丘上に於いて、起工式が行われた。五ヶ月後の九月十五日肇耕社庭で本幹水路の通水式が行なわれた。

通水式には、北白川宮能久親王・山県有朋・三島通庸・樺山資雄(栃木県令)その他が出席。一行は、七十五台の人力車に分乗し、千本松から取入口の西岩崎に向かった。

視察の後、前回同様、五艘の小船に乗って水路を下った。式典の中で、印南・矢板の両氏の功績に対し、親王より銀杯を賜った。本幹水路に続き、四本の分水路工事を行い、十九年六月迄に完成した。

この後も、水路の維持管理・水利権問題の為、組合を作る等に尽力したが、印南丈作が明治二十一年一月七日五十七才で、矢板武が大正十一年三月二十二日七十三才で亡くなられた。

【参考文献】

①「那須疏水」田島薫

②「明治以前の開拓史」西那須野町双書二

③「西那須野町の開拓史」西那須野町双書三

【開拓初期の大農場と推移】

農場名 開設者

★肇耕社 三島通庸

・三島農場 三島通庸

★那須開墾社 印南丈作・矢板武

・千本松農場 松方正義

・矢板農場 矢板武

・大久保農場 大久保利和

・その他八農場

★加治屋開墾場 大山巖・西郷従道

・大山農場 大山巖

・西郷農場 西郷従道

★青木農場 青木周蔵

★共墾社 天野武三郎

★傘松農場 品川弥二郎

★毛利農場 毛利元敏

那須開墾社・加治屋開墾場は、後年分割して個人農場に移行。

【開拓初期の移住人】

出身地で主なものは、栃木県はじめ長野県・茨城県・富山県・東京等である。

【あとがき】

★まだ交通・通信が発達していない時にこれだけ精力的に行動出来たのは、やはり那須野ヶ原の開拓に情熱を持っていたからであろう。(東北本線が黒磯迄開通が明治十九年十二月一日のこと)雪の中を歩いて実地調査など想像を絶する。

★①の文献の著者は、明治七年生まれで町長・水利組合・土地改良区の責

任者を務めており、矢板武から直接聞いた話として、当時の模様を克明に描写している。

★今回、文献を読んで今まで知らなかったことを、多く教えられ認識を新たにしました。

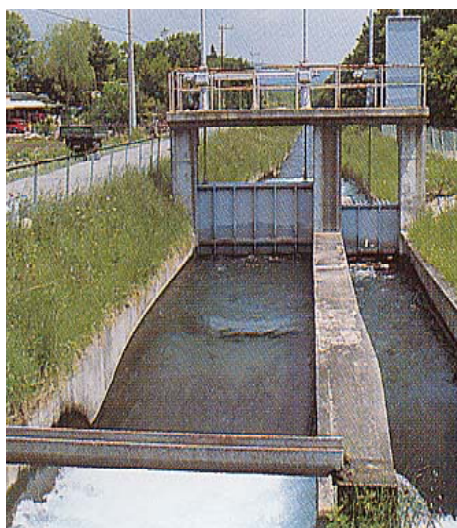
例えば・・・

一、前記の墓沼用水

二、ライスライン(通称縦道)は、明治八年「関八州大三角測量」の名残り。南端の大田原親園と北端の千本松間約10kmを直線で結び両端に「観象台」という基点を設けた。今も、草地試験場内に保存されている。

三、那須ヶ原は、場所にもよるが、砂利層が厚く開墾時に出て来た石を積み上げ今も「石ぐら」として保存されている。

★疎水、その他町の史跡を是非訪ねてみたいと思っている。



第一分水

「前夜祭」富岡堯子

「アジアの女性達よ、国家・民族・宗教・文化・風俗習慣の壁を乗り越えて、平和の為に手をつなごう」というのがF A W A(アジア婦人団体連盟)の綱領である。あの悲惨な第二次世界大戦後、フイリッピンのマニラで発足したF A W Aはこの年(昭和五九年)創立二五周年を



と夫妻ごさんアジュリア嬢令閥財 胡

迎え、記念総会の基調演説者はイメルダ・マルコス大統領夫人と聞いて、何が何でも出席せねばと「難民を助ける会」の会長 相馬雪香女史にお願ひした。そして、「盆と正月と誕生日とクリスマスとラマダン」が一緒にきたようになってんやわんやの忙しさが始まった。

突然、シンガポール婦人協会会長のS女史からエアーメールが届き、私が送った写真のお礼と共に「六月下旬のF A W A総会の直前、我が婦人協会も創立三十周年を祝う。日本の代表団もマニラへの途中シンガポールに立ち寄って参加して頂きたい」。写真を送られて思い付いたようなご招待であつたから、相馬女史も関西のT女史も日程の都合でダメ。どういふ訳か、私が出席することになり国際電話をかけた。S女史は私をメインテーブルに着かせると言われるので、何を着れば良いかお伺ひした。「オオ、それは勿論日本のキモノが良い、日本のキモノは美しい!」きかなきや良かった。和服ほど大変な代物はない。おまけにレストランシアター「ネプチューン」での夜会で着る物となると? 十八年も前の白地紅型の小振袖に菊と鼈甲模様の黒地の帯しかない。帯結びはいつも近所の小母さんを頼んでいたが、一体シンガポールにそんな小母さんがいるかしら? 平和の為に手をつ

なごうという呼び掛けに感動した私だったが、風俗習慣を越えて友情を示すのは、口で言うほど簡単ではないのであつた。

私が子供の頃、シンガポールは昭南島と呼ばれていた。マレー半島の先端は真紅に塗られ、「大日本帝国」の領土である事を表していた。

♪起つやたちまち撃滅の勝どき上がる大戦果、東亜侵略百年の野望をここに覆す、今決戦の時きたる——。このメロディはいつでもたやすく浮かんて来る。戦後、東南アジアの人々の日本に対する感情は愛憎交錯であると言われた。——果たしていかなることに相成るであろうか。

サマセット・モームの宿で有名なRホテルは、昭南島時代は高級軍人と高等官五等以上の官吏しか泊まれなかつたそう。期待に反し、その受付は宇都宮の国立病院みたいに殺風景で、おまけに美容室ときたら日本なら三十年前の設備であつた。背もたれが倒れるどころか、シャンプーは冷水でいくら南洋とは言えヒドイ。それでもロンドン仕込みの美容師達の腕は確かで、満足に仕上がつた。着付けも何とか一人で出来て、(ふくらスズメはインチキだが誰にも判るまい) S女史の秘書ドリーが早々と迎えに来てくれたので一番先に会場へ着いてしまった。海の底を思わせる大宴会場。二番目には

F A W Aの後援者 胡曉子夫人の令嬢ジュリアさんと夫君のG氏。ジュリアさんは、鯛の目玉のようなダイヤをつないだブレスレットの輝く手で「シャープにお勤めのトミオカさん」と夫君に紹介して下さった。昭和四十三年当時は「早川電機？何それ？」と言った感じで、妹が「シャープのカラータレビは良いのよ」と情報提供してくれたので入社を決めた次第だったが、今やシャープの社員という身分は国際社会で超一流なのであった。

シンガポール駐在の日本大使ご夫妻も到着された。大使夫人はフランス製らしいドレスに真珠のネックレス。「ホテルはどちらでいらつしやいますの？」「Rホテルでございます」「由緒あるホテルですね」「ハイ、由緒があり過ぎて廊下など私が歩きますと床が抜けるようでございます」今度は私の方からいつ赴任されたのかと伺う。「一年半になります。もうすつかり慣れまして生活をエンジョイしております。」なんて女同志のオシャベリを大使はニコヤカに聞いておられる。

ああ、あの工場中を駆けまわっていた海営での日々よ。若くエネルギーシユなE子ですら「富岡さん、ここの海営で勤まったら世間のどこだって勤まりますわネ」と言った。「貴女方は課の良きホステス(女主人)役にならなあきません」という海営課長の薫陶が実って、大使夫人と並んでも臆する事のない国際感覚を身に付け

る事が出来たのだ。

第一部の式次第は型通りであるので省略。主賓の最高裁判事、日本大使ご夫妻らが退席された後、第二部のアトラクションが始まった。大きなクジの箱が持ち出され、誰かの名が呼ばれると、その女性は傍らの男性に手を取られて舞台に上がり、クジを引く。当たり番号の出たテールブルから歓声上がる。そのうち私の名まで呼ばれた。何が何だかわからぬままに立ち上がると、S女史の夫君ミスターSが英国仕込みのマナーで壇上に導いて下さった。箱の中からクジを取って係に渡すと、どこかのテールブルから又歓声上がり、私にはご褒美として、紫の蘭に銀の小扇をあしらった花籠が渡された。振袖姿の私にスポットライトが当たり満場の拍手が一際高く感じられた――。日本文化を示すべく、ひもやら足袋やら帯枕やらを旅行鞆に詰め込み、帯結びに格闘した苦労は、このとき正しく報われた。そして(お父さん見て下さい！)中学生の娘の英語の成績に天を仰いで嘆息していた亡き父の顔が浮かんできた。

最後はこの会のハイライト、ミス・コンテストで、ミス・ワールド世界大会への代表を決めるのだ。正直の処、シンガポールは宇都宮と同じで美人は少ない。とはいえ十数人の候補者達はさすが皆チャーミングで、潑刺と水着姿で舞台を歩き、会場はもう雰囲気酔いしれていた。王冠とマントを付けたミス・シンガポールは将

来の希望を聞かれて「ブティックを持ちたい」と答えた。

若い南国の祝祭は果てることなく続くように思われた。戦後生まれの会員達は何のわだかまりもなく日本人の参加を喜んでくれ、代役の責任を果たした私も幸福だった。



セントーサ島のケーブルカーから見たシンガポールの街

これからの我が人生

鈴木 常忠

先日はシャープ社友会栃木支部の皆様の励ましを戴き、心より厚くお礼申し上げます。

本当に有り難うございました。私も今回妻を亡くして初めて人と人とのつながりの大切さを身をもって感じました。

私も定年を迎えてから三年が過ぎた今日、多数の人との出会いがあつてその人たちと関係を大事にして、お互いに助け合つてこれからの生涯を生きていきたいと思つております。お陰様で定年以降続けておりますボランティアの空手道も今年は三十一名の参加を戴き、少しではありますが増えております。その中で指導者を含め子供たちとその父兄を初めとして各道場との触れ合いもあり、妻亡き後も周りの人々に助けられてお陰様で楽しく毎日が充実した日々を送っております。

子供たちの日々上達していく姿を見てると今にして空手道を趣味として続けていて良かったとつくづく思う今日このごろです。これからも自分の命がある限りはこのボランティア活動を続けていくことにより、自分の為にもなり、人の為にもなれば私の人生の生き甲斐でもあると思います。ただ毎日を遊んでいるのと同じで好きなことを好きなようにやって行けると言うことは私にとっては最高の幸せであり生き甲斐でもありますので、それで人生が終わっても悔いがないと思つております。

妻を亡くしても又自分が亡くなることがあつても良し悪しに拘わらず、定年後の私の生きざまとして多くの、多くの子供たち、そして多くの人に支えられて一生を終えることが出来れば、私にとっては最高の幸せであり生き甲斐であると思います。心より皆々様の御協力に感謝し筆を止めます。

一生を人にかかわり、出来ること

自分に出来る、最高の夢

クラブ・同好会のページ



■第10回歩こう会 参加人員25名

沼山峠から「尾瀬沼」一周

H13年7月9日(月) 快晴
高山植物の花々が咲き乱れる夏の尾瀬

■第11回歩こう会 参加人員19名

奥日光「切込湖・苅込湖」

H13年9月2日(日) 晴天
原生林の中の湖で爽やかな空気を満喫

■第12回歩こう会 参加人員26名

鳩待峠から「尾瀬ヶ原」半周

H13年10月12日(金) 晴天
秋晴れに草もみじの尾瀬ヶ原は絶景

(中村 茂 記)



■第9回歩こう会 参加人員13名

高原山「釈迦ヶ岳」登山

H13年5月13日(日) 晴天
山頂で 山開き行事に参加し喜び合う





メビウス秋冬新製品説明会会場風景

《メビウスクラブ》

当クラブでは、年間活動計画に基づき、次のような講習会を開催してきました。

- 7月：インターネット、Eメール
- 8月：住所録作成
- 10月：メビウス新製品説明会
- 10月：年賀状作成
- 11月：パソコン機器基礎講座

新年も引き続き各種活動を、進めますので、新規会員加入をお待ちしています。

申込先：中村義雄 TEL 44-2373



琵琶池コース（スタート前）

三十回記念 ゴルフコンペ開催

九月二十七日（木）二十五メンバーズ倶楽部琵琶池コースで、ゴルフ同好会通算三十回の記念コンペを行いました。晴天に恵まれ参加者二十一名（初参加）と睦と健康維持の楽しい一日を過ごすとが出来ました。成績は七十四で、八木弥氏が初優勝を飾りました。平成七年十月に会員六名で発足以来六年で会員四十名、開催三十回を達成することが出来た。今後とも更なる充実を図って参ります。（生嶋記）

カメラクラブ世話人 只友さんへ

長年カメラクラブの世話人をしていただきました徳田 浩さん（十年）と田中 勇さん（八年）から、只友将弘さんに十二月一日より引き継ぎいたしました。今後共に親睦とクラブ発展のためによろしくお願いいたします。

（田中 勇 記）



左から 田中、山中、徳田、広尾、山上、城本
大自然の中で撮影会を実施しました！

実施日 平成13年6月12日（火）

場所 那須野ヶ原公園（栃木県立大規模公園）

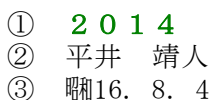
この度十一月六日をもちまして、定年退職致しシャープ社友会栃木支部へ入会する事になりました。これから永年シャープで教わった多くの教訓を肝に銘じ、皆様方から賜りました暖かいご厚情を心の支えと致しまして、新しい人生を有意義に歩んで行きたいと思っております。

宜しくお願い致します。

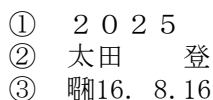
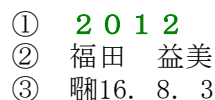


昭和四〇年四月一日入社以来、三十六年四ヶ月皆様の御指導、御協力のもと、この度無事定年退職を迎えることが出来ました。

今後とも喜びや苦勞を共にしてきた皆様方と社友会を通じ交流していきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

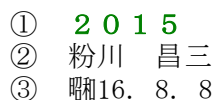


入社以来三十二年余り工場、営業そして環境にやさしい住宅用太陽発電システムを担当し無事定年を迎える事が出来ました。今後は社友会の皆様と共に第二ステージを楽しく過ごしたく思っています。



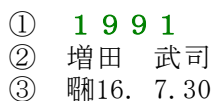
今年からシャープ社友会に参加させて頂くことになりました。在職中の勤めから開放され、これからが人生と社会人としての仕上げの時期と思っています。

先輩諸氏のご指導と、ご鞭撻を切にお願い致します。

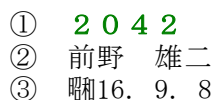


平成四年より栃木を離れ天理、三重での勤務を終え八月に定年退職しました。第二の故郷である栃木でまた皆様との交流の場を持たせて戴きたく思っています。

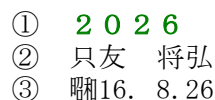
今後共御指導、御鞭撻の程よろしくお願い致します。



七月末に入会しました。今後共よろしく
願います。



諸先輩方の御指導、御鞭撻のおかげで無事定年を迎えられました。現在、四一年間の心身共に疲れをいやしているところであります。今後は趣味の写真を通じて皆様との交流を図ってまいりますので宜しく願います。



シャープに二六六年間、関東タツミ（関係会社）に一六六年間勤務し、後半三〇年間はビデオ機器の開発・生産を担当させて戴きました。今後は皆様から賜りましたご教示を糧として「日々是好日」をモットーに有意義に過ごしたいと思っておりますので一層のご厚情と御指導を賜りますようお願い申し上げます。



① 2107
② 尾形 四良
③ 昭和16. 9.29



この度十月二十九日、満六〇歳の誕生日を迎え会社を退職致しました。在職中は公私にわたり諸先輩のご指導のおかげで、感謝の気持ちでいっぱいです。今後共より感謝の気持ちを込めて、ご厚情の賜物と心より感謝の気持ちを申し上げます。



① 2079
② 尾坂 明
③ 昭和16. 10.29

喜寿・古希 お目出度う御座います

会員番号	御祝い	お名前	御祝いの日
408	古希	長谷川 忠志	平成13年 1月10日
399	古希	浦川 正司	平成13年 1月14日
400	古希	久利生 英雄	平成13年 1月24日
428	古希	大谷 仲治	平成13年 5月 4日
435	古希	山口 和夫	平成13年 8月11日
441	古希	徳田 浩	平成13年11月 2日
374	喜寿	土田 甲子	平成13年 2月 5日
317	喜寿	土屋 俊夫	平成13年 3月20日
320	喜寿	大森 光男	平成13年10月16日

編集後記

▼新春号第9号が、初めて年内にお届け出来る事となりました。先ずは目出度し、目出度しと、安堵の胸を撫で下ろしています。

●今回は、各編集委員が担当ページを定め、そのページに文字入力、紙面のレイアウト、写真、イラストの選定と紙面への貼り付け等総てを自己の責任において完結させました。このことが、完成時期を早めるのに大いに貢献しました。

★この為に、各編集委員は、原稿のOCRに依る文字データのパソコンへの取り込み、スキヤナーによる写真、イラストの取り込みと貼り付け、等のノウハウをマスターして、その知識をフルに活用することで完成させることが出来ました。

◆パソコンは、やはり使いこなすことで、処理能力が向上することを、編集委員全員が身をもって、体感した次第です。

◆パソコンをこれから使い始めようとする人は、メビウスクラブにご入会されますと共に社友会報の編集にも参加されますよう、クラブ会員、編集委員ともにお待ちしています。
(編集員一同)